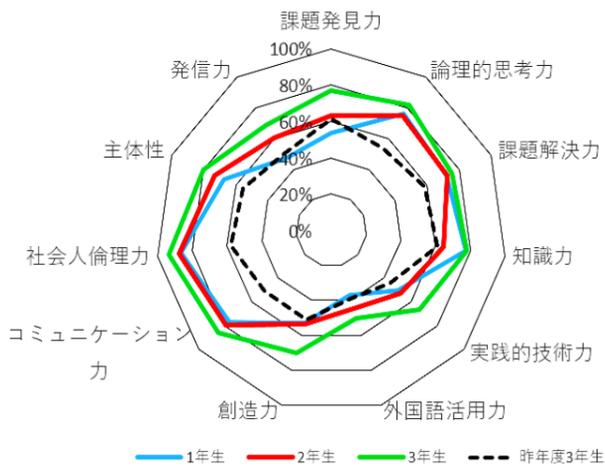


～ 4年目の成果から透けて見える地域工業界の光 ～  
 SPH事業 令和2年度の概括

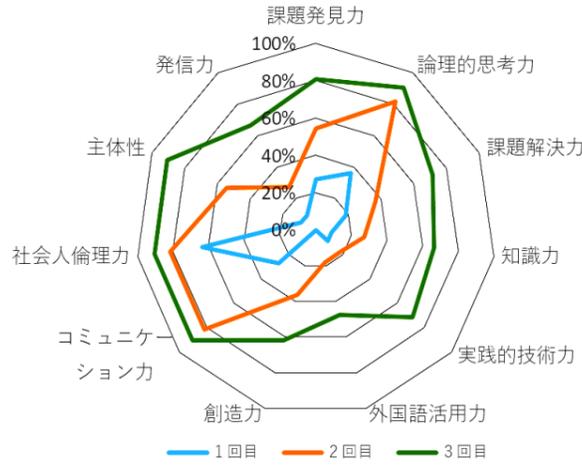
11のSPHスキルについて自己評価

本校のSPH事業における生徒・学生各自の目標として掲げる11の各スキルについて、S、A、B、Cの4段階で自己評価を行いました。

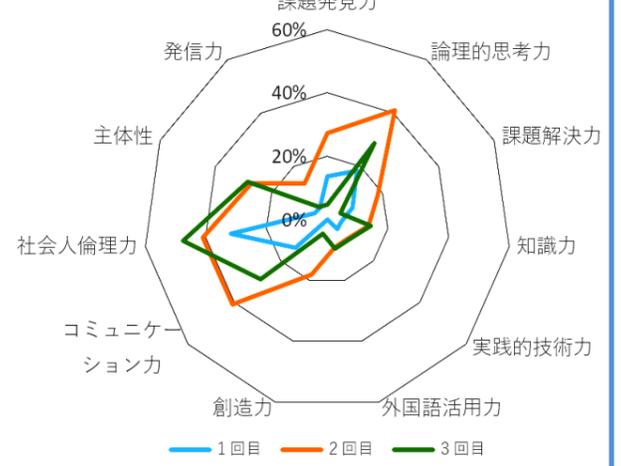
① 本科 SPHスキル Aレベル以上割合



② 専攻科 SPHスキル Aレベル以上割合



③ 専攻科 SPHスキル Sレベル割合



高校本科生徒の着実な成長

①のレーダーチャートは高校本科生が年度末の自己評価を行い、SとAの評価の割合を学年別に表したものです。学年が上がるにつれて、おおよそ着実に能力を伸ばしている様子がわかります。SPH事業も4年目に入り、コロナ禍でありながらも学校の体質や文化がSPHの目指す方向へとトランスフォーメーション(変革)している表れではないかと考えられます。

今後も更に授業をはじめとした多岐にわたる各種取り組みをブラッシュアップしていく事で、より高い能力を身に付けたり、大きな成果を出していきながら、地域産業を支える課題解決力、創造力を持った先進的技術者の輩出につながるものと確信します。

専攻科1期生の加速度的成長

年間を通して3回調査を行いました。②のレーダーチャートは専攻科1年次生(1期生)のもので、自己評価としてS、Aの判定をしたものの割合について表しています。今年度、地域の期待を背負ってスタートした専攻科の1期生が、目覚ましい成長を遂げた事が、このチャートから見て取れます。さらに来年度、2年次のカリキュラムを通して、爆発的な成長を期待せずにはられません。1年次のカリキュラムでは、生産現場からの講師招聘や、企業実習を通じた現場指向の取組が、学んだ技術を社会に実装する能力を育み、課題解決からはじまる地方創生を創造する素地を作り、そして2年次の取組で実を結ぶよう進めていきます。

目標はいつも頭上に高く輝く

③のチャートは②のチャートからSレベルの自己評価のみを抽出したものです。これをみると、Sレベルが極めて少ないことが改めて認識できます。特に3回目の評価が後退してしまっているのは、学生が企業実習等の取組を通して、スキルを測る尺度を、より高いレベルに引き上げたことに要因すると考えられます。来年度は多くの学生がSレベルの自己評価が出来るよう、取り組みをブラッシュアップしてまいります。

SPH川柳

「まだまだ」と 己に厳しく わざ 技術磨く

専攻科 国家技能検定合格多数! 青春の汗が山梨の産業界の未来を創る!

◎機械系学生

- 機械加工(普通旋盤作業) 2級 4名合格
- 機械加工(マシニングセンタ作業) 3級 1名合格
- 機械加工(フライス盤作業) 2級(学科のみ1名合格)

◎電子系学生

- 機械加工(普通旋盤作業) 3級 5名合格
- 機械検査(機械検査作業) 3級 6名合格

開設1年目にして多くの学生が、国家技能検定の合格を果たしました。コロナ禍の中、残されたわずかな時間を活かし、大きな成果を上げました。教職員も普通旋盤2級に合格するなど、学校を上げて切磋琢磨し、山梨の機械電子産業の生産力へ貢献する道を着々と歩んでいます。そうした成果の裏には、高度な熟練した匠の技を教えてくださいました指導員の皆様方の存在が欠かせません。今後とも専攻科を含めた山梨県の工業教育へのご協力を賜りますようお願いいたします。